

# お客様と社会の期待に応えて、 1人ひとりの心に響く教育を行っています

## 交通安全を伝える

### Hondaの基地

交通教育センターは「危険を安全に体験する」Hondaの参加体験型の実践教育の場として活動しています。

1964年に鈴鹿サーキット安全運転講習所（現在の鈴鹿サーキット交通教育センター）、1973年に交通教育センターレインボー福岡が誕生、現在は全国8カ所に広がり、社内外の指導者養成と企業様や一般のお客様を中心に、交通安全の活動を推進しています。今年（10月現在）の方にご利用いただきました。

開設以来、最新の教育設備、機器、教育手法を積極的に取り入れ、教育の質の向上に努めています。1997年からは、Hondaの安全運転普及の各分野で活躍するインストラクターの指導力と運転技術の向上と均質化を図るため「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を開催しています。

### 運転傾向の変化に合わせた 教育プログラムの提供

交通教育センターを利用される企業様で最近関心が高いのは、新入社員のための安全運転教育です。運転免許を取得していなかったり、運転経験の少ない新入社員の方が増えているためです。

交通教育センターレインボー埼玉では、運転知識、運転経験不足を補うための、車庫入れ等の基礎的技能の時間を増やした研修を実施し、初心運転者のリス

ク低減を求める企業様のニーズに応えています。

実際の交通状況に近い映像を見ながら、集中力や危険予測力を高める「動画KYT（危険予測トレーニング）」も、時代に合った教育手法として企業様から注目され始めています。

企業や団体、地域の交通安全活動を推進するリーダーの交流の場として各地の交通教育センターが開催している「トラフィック・セーフティ・フォーラム」（全国5カ所開催）でも、今年は、企業ドライバーの事故傾向の変化に合わせた教育方法について、活発な意見交換が行われました。

### 交通安全を伝えるために その人の視点に立つことが大切

交通教育センターには、企業や個人の運転トレーニングだけでなく、地域社会からの教育依頼も増えてきています。

「Honda健康ドライブスクール」は高齢ドライバーのための少人数制の研修ですが、アクティブセーフティトレーニングパークもてぎでは、地元の茂木町から依頼を受け、地域の方を対象に開催しています。来年は対象を栃木県全域に広げ、開催される予定です。

茂木町が開いている小学生や中学生対象の交通安全教室にも協力しています。通学路を撮影した写真を使った危険予測トレーニングなど、生徒が安全に関心を持てるよう、色々な手法を考案しています。

企業安全運転研修会



## 企業・団体様への活動



動画KYT(危険予測トレーニング)は、受講者たちの討論を中心にした気づきを促す教育手法コーチングと、インストラクターの適切な指導との組み合わせで進められています。



「トラフィック・セーフティ・フォーラム」は、全国5カ所の会場で行われ、約400の企業・団体様より約800人の安全運転管理者などが参加しました。

## 個人のお客様への活動



交通教育センターの個人対象のスクール二輪HMS、四輪HDS\*は、お客様のスキルやニーズに応じたさまざまなコースを用意し、多くの方にご参加いただいています。HDSでは、今年、女性ドライバー向けのスクールを新設しました。



※HMS (Hondaモーターサイクリスト・スクール)  
HDS (Hondaドライビング・スクール)

## 地域活動への協力



中学生対象の交通安全教室。通学路で撮影した写真を使った危険予測トレーニングや、車の死角体験を取り入れています。(アクティブセーフティトレーニングパークもてぎ)



「Honda健康ドライブスクール」は少人数制で、コースを走り、録画した自分の運転場面を振り返りながら、加齢の変化を補う安全運転の方法を学びます。

## 指導者のスキルアップ



「セーフティジャパンインストラクター競技大会」は、安全活動を担う指導者の指導力と運転技術の向上と均質化を目的に開催されています。12回目の今年は、世界10カ国から119人が参加しました。